第七講・説明的文章③

◆事実と意見を読み分ける

説明文を読むときは、事実や具体例と、筆者の考えや意見・感想を読み分け、どんな事実や具体例をもとに、筆者がどんな考えをのべているかをとらえることが大切です。

(1) 事実をのべた文

筆者が考えをもつきっかけとなったことや、考えの根きょ、説明するための具体例などをのべています。

「だ」「です」など、はっきりのべたり、「……だそうだ」「……ということだ」など、人から聞いた話としてのべたりします。

(2) 意見をのべた文

「思う」「考える」など、自分の考えであることをしめしてのべるほかに、「……のだろうか」など、疑問を投げかける表現や、「……といえそうだ」「たぶん……だろう」「……かもしれない」など、判断をふくんだ表現のものがあります。

事実をのべた文なのか、意見をのべた文なのか、文末の形だけでは区別ができないこともあるので、内容もしっかりとかくにんすることが必要です。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

春の空は、まず光がみちみちてくる感じで、これを「光の春」といいます。冬の寒さは*1冬至よりおくれて2月にまでずれこんでいるのに、昼の時間はどんどん長くなっていくからそのように感じられるのです。

冬至のときの昼の長さは、9時間45分、これが立春になると10時間33分となり、春分には12時間7分となります。これはたいへんめだった変化です。

春は、冬と夏の交代する季節です。その交代のしかたは、とつぜん、冬が夏になるのではなく、はやめに夏のきざしがあらわれたり、そのあとふたたび冬の天気にあともどりしたりしながらかわっていきます。①この一進一退のあらわれるのが春です。春の期間は*2緯度が高くなるほど短くなります。そのため、たとえば北海道では、花のさく時期が5月に集中しています。

あたたかくなったり、寒くなったりする天気の変化は、いつも周期がきちんときまっているというわけではないのですが、春にはおよそ3〜4日で天気の変化がくりかえされることが多いのです。春雨のあと、みょうにかすんだ日が1〜2日続くと、こんどは*3砂じんをまきあげ、中国大陸から黄砂を運んでくる春のあらしがふくといったような天気の変化です。

②春の雲はかすめる雲、夏の雲はわきたつ雲、秋の雲は流れる雲、冬の雲は氷の雲、というように、各季節の雲のたたずまいは、それぞれの特徴をもっています。

春の雲がかすんでいるのはおよそ二つの理由が考えられます。第一は、春になると、それまでの冬の北の気流が、南の熱帯からの気流といれかわるためです。熱帯に旅をしてみると、北方のすんだ空気に対して、南の空はなんとなくかすんでいるのを実感されるでしょう。春の雲がかすんでいるということは、南方の気流が日本上空にまでおよんでいるとい

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

うことをしめしています。

空がかすんで見える第二の理由は、煙霧(えんむ)のためです。煙霧には、暖房(だんぼう)や自動車・工場などの煙(けむり)がもとになるもののほか、植物からでるものがあります。これは、春になると、植物はさかんに＊４光合成(こうごうせい)をするようになり、＊５揮発性(きはつせい)の物質(ぶっしつ)が放散(ほうさん)されるようになります。その物質に、太陽の光があたると、紫色(むらさきいろ)がかった③自然の煙霧になります。

かすみということばは、気象学では正式な用語としては使われていません。なぜかというと、かすみという場合に昔から意味のちがったふたつの現象(げんしょう)をさしていて、たいへんまぎらわしいからです。ふたつの現象とは、およそつぎのようなことです。

ａ遠方にたなびいて見えるかすみ

『かすみたなびく』ということばが昔からいわれるように、遠方の地平に＊６層状(そうじょう)の雲がひろがっているようなときに、これをかすみとよび、歌にもよみこまれています。この場合のかすみは、朝方、地面が＊７放射冷却(ほうしゃれいきゃく)をしたときにあらわれやすく、昔は庶民(しょみん)のかまどからでる煙も、かすみのようにたなびいて見えることもありました。

ｂぼんやりとかすんで見えるかすみ

このかすみは地表から１５００ｍくらいまでおよんでいます。その上はよく晴れあがっています。これは春に飛行機にのるとよく経験(けいけん)することですが、なんとなくかすんだ空は雲のようにはっきりした形をとりませんが、上限(じょうげん)がわりあいはっきりしているため、一面に白い海がひろがっているように見えることもあります。

（根本順吉(ねもとじゅんきち)『春のお天気』）

＊１冬至＝北半球では、一年中で昼がいちばん短くなる日。

＊２緯度＝地球上のある点を南北方向でしめす目もり。

＊３砂じん＝すなぼこり。すなけむり。

＊４光合成＝緑色植物が、光のエネルギーを使って、空気中の二酸化炭素(にさんかたんそ)と根からすいあげた水分とで、でんぷんを作るはたらき。

＊５揮発＝液体(えきたい)が、常温(じょうおん)で気体となって発散すること。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

＊6層状（じょうたい）＝いくえにも重なっている状態。
＊7放射冷却＝地表面から冷（ひ）えて、地表近くの気温も下がる現象。

問一　——線①「この一進一退のあらわれるのが春です」について、次の(1)～(3)に答えなさい。

(1)　筆者は、春をどんな季節といっていますか。文中から書きぬきなさい。

(2)　「一進一退」とは天気の変化のどんな様子を指していますか。「～様子」につながる形で文中から十八字で書きぬきなさい。

様子

(3)　春の天気はどのくらいの周期で変化することが多いのですか。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問二　――線②「春の雲はかすめる雲」とありますが、春の雲がかすんで見えるのはなぜですか。その理由をのべている段落（だんらく）を二つさがし、その初（はじ）めの五字をそれぞれ書きぬきなさい。

□□□□□

□□□□□

問三　――線③「自然の煙霧」について説明した次の□にあてはまることばを文中からそれぞれ書きぬきなさい。

植物が□□□をするときに□……□□の物質が出て、これに□□の光があたると空気がかすんで見える。

問四　次の**ア**～**カ**は、＝＝線a「遠方にたなびいて見えるかすみ」、b「ぼんやりとかすんで見えるかすみ」のどちらの「かすみ」についての説明ですか。それぞれ記号で答えなさい。

ア　地表から１５００ｍくらいまでの高さにおよんでいる。

イ　遠い地平にいくえにも雲がひろがっているようなときを指す。

ウ　昔から歌にもよみこまれている。

エ　朝方、地面が放射冷却をしたときにあらわれやすい。

オ　上限がわりあいはっきりしている。

カ　雲のようにはっきりした形はとらない。

a □

b □

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第七講　説明的文章③

一題目

問一　(1)　冬と夏の交代する季節
　　　(2)　あたたかくなったり、寒くなったりする（様子）
　　　(3)　およそ３～４日

問二　春の雲がか
　　　空がかすん　（順不同）

問三　光合成・揮発性・太陽

問四　a　イ・ウ・エ
　　　b　ア・オ・カ　（それぞれ順不同）

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。